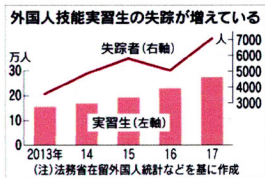


在禅洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禅洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診察日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00
 〒502-0017 岐阜市長良雑種878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/
 177号 2018.12.1.
 毎月1回発行 座禅洞診療所 松井英介

人間の尊厳はどこに

松井 英介



11月29日付日経電子版は、外国人技能実習生のつぎのような実態を紹介しています。

「3月上旬に入居したというベトナム人女性（36）に話が聞けた。16年4月に来日。実習先の山形県内の縫製工場での勤務実態は過酷だった。1日14～15時間働いて休日は年に7日だけ。『仕事が遅い』などと責められ、帰国するよう強く迫られたという。来日費用を払うため銀行から100万円ほど借金しており、ベトナムの賃金水準では返済できない。祖国に残した10歳と8歳の子供のためにも、日本に残らなければ会社の寮を逃げ出した」。

この記事の見出しは、「技能実習生の失踪7000人 駆け込み寺、元難民が奔走」。本文の冒頭は、つぎのようです。「外国人技能実習生の失踪が後を絶たない。受け入れ先企業とトラブルになり、姿を消すケースが目立ち、2017年は7000人を超えた。人手不足を背景に増加が予想される外国人の就労機会。失踪した実習生の姿からは今後、解決しなければならない課題が見えてくる。福島県郡山市にある実習生の『駆け込み寺』を訪ねた（覧具雄人）」。

失踪の原因は、「長時間労働、強制帰国の恐怖、上司や同僚からの暴力——」。「この施設で生活するのは、様々な事情で実習先から避難した10～30代のベトナム人の男女だ。岡部文吾さん（36）が経営していた市内の飲食店をたたみ、1月に受け入れを始めた。「岡部さんの本名はファム・ニャット・ブンという。5歳のとき家族とベトナムを脱出、マレーシアの難民キャンプを経て8歳で来日した。『異国で居場所がない実習生を放っておけなかった』」。

「だが、一時的な保護は根本的な解決にならない。多くの実習生は『日本で働き続けたい』と希望するが、技能実習制度では自らの意思で職場を変えることができず、留学生と違いアルバイトも認められていない」。

この記事には触れられていませんが、人権を無視された外国人が、危険な原発事故現場や除染作業に動員されている現実にも注目する必要があります。

わずか15時間余りの審議で、入管難民法などの改正案は、衆院法務委員会で強行採決。11月27日の夜遅く衆院を通過、参議院に送られました。

安倍官邸は外国人受け入れを急ぐ理由として人手不足を挙げていますが、その前にまずやらなければならないことがあるはずです。それは、この記事が明らかにしたような「実習生という名の外国人」を人間扱いすること。それができなければ、この国は人間の尊厳を無視する非民主主義国として、さらなる孤立の道に踏み込んでいくことになるでしょう。